

令和8年度 畜産研究所試験研究概要

担当	研究課題	研究期間	研究概要	区分	共同研究機関
飛驒牛研究部	未利用資源(県内自給可能)活用による飛驒牛の脂質向上に関する研究	R8～R10	飼料価格高騰への対応策として県内未利用資源の活用を進めるべく、米ぬか給与による脂質への影響および酒粕を利用するための保存方法と増体への影響について検証する。	食料確保・生産力向上プロ	
	ルーメンマルチセンサを用いた牛群モニタリング技術の開発	R7～R10	前プロジェクト研究において開発した、発情や分娩を検知できるマルチセンサ(温度・加速度センサ)に圧力センサを加えることで、採食量や胃運動などを新たに検知できるモニタリングシステムを開発することで作業の軽減と収益性の改善を図る。	革新的経営環境強化プロ	太平洋工業株式会社
	ゲノム情報を用いた食味に優れた種雄牛の造成	R6～R10	飛驒牛の特徴形質に加えて、イノシン酸やグルタミン酸などの新しい食味形質についての測定方法および能力評価法を確立し、食味に優れた種雄牛を造成する。	革新的経営環境強化プロ	(公社)全国和牛登録協会
	飛驒牛における受精卵でのゲノム育種手法を活用した効率的な生産技術に関する研究	R8～R10	従来実施してきた種雄牛造成に受精卵技術やゲノム育種手法等の畜産新技術を駆使することで、飛驒牛の改良スピードを加速させる。	地域密着	家畜改良センター、(公社)全国和牛登録協会
	凍結精液の受胎率予測法の確立	R6～R8	種雄牛の造成を継続していくため、凍結精液を用いて人工受精後の受胎率を予測するための検査法を確立する。	地域密着	岐阜大学、東京農工大、琉球大、農研機構
	非分解性蛋白質の早期給与が牛枝肉成績に及ぼす影響	R3～R8	育成期に非分解性蛋白質の給与を開始し、それによる枝肉成績への影響を検証し、非分解性蛋白質及びバイパスアミノ酸の適切な給与開始時期を明らかにする。また、アミノ酸飼料の添加による温室効果ガス削減の影響を検証する。	地域密着	農研機構、京都大学

令和8年度 畜産研究所試験研究概要

担当	研究課題	研究期間	研究概要	区分	共同研究機関
酪農 研究部	ドローンを活用した飼料作物の精密管理による省力化と自給飼料生産力向上の実証研究	R8～R12	自給飼料の安定生産と省力的管理技術の確立に向け、ドローン等を活用した生育ムラの可視化と可変施肥による資材投入の効果と最適化について技術確立を目指す。	食料確保・生産力向上プロ	(一般社団法人) 岐阜県農畜産公社 東濃牧場
	暑熱耐性ホルスタインの生産に関する研究－胚ゲノム選抜による生産とAIを用いた評価－	R6～R10	暑熱耐性遺伝子を持つホルスタイン種を胚ゲノム選抜法により効率的に生産し、AIを活用した胃内留置型センサーにより活動データを収集して日本型気候への適応性を明らかにする。	革新的経営環境強化プロ	つくば遺伝子研究所 太平洋工業株式会社
	幹細胞由来因子を活用したウシ臨床繁殖学の展開－繁殖効率向上と乳房炎に関する臨床研究－	R7～R11	重大疾病（繁殖障害及び乳房炎）に対する幹細胞由来因子を用いた治療法開発のため、これまでの成果に基づいた精子・受精卵の臨床評価と乳腺上皮細胞による基礎評価を実施する。	重点	岐阜大学、名古屋大学 他
	飼料用稲の利用拡大に向けた早期刈り取りに関する研究	R7～R9	黄熟期より早期に刈り取ることで生じる栄養成分の変化や発酵品質に及ぼす影響を調査し、早期刈り取りの稲WCSの利用性について検討する。	地域密着	イビデン株式会社
	乳用未経産牛における経膈採卵技術の開発研究	R6～R8	乳用未経産牛での経膈採卵において体外胚生産法により採卵数を高める技術を検討し乳用牛での改良スピードの向上を図る。	地域密着	

令和8年度 畜産研究所試験研究概要

担当	研究課題	研究期間	研究概要	区分	共同研究機関
養豚・養鶏研究部	【養豚】 抗病性能を有する種豚による新たな養豚生産基盤の構築	R6～R10	豚慢性疾病（主に肺炎）の発生や重症化と免疫等に関連する抗病性DNAマーカーとの関連を明らかにし、県有種豚の抗病性を高める改良を行う。	革新的経営環境強化プロ	農研機構生物機能利用研究部門、動物衛生研究部門、国立大学法人 東北大学
	【環境】 豚ふん堆肥を主体とした新たな肥料の開発と堆肥利用促進ツールの開発	R6～R9	堆肥の肥料としての活用を促進するため、窒素やカリを添加しペレット・粒状化肥料する製造技術の開発及び堆肥の時期別の窒素発現量を計算可能とするモデルを作成する。	みどり戦略プロ	県農業技術センター
	【養豚】 次世代型の豚遺伝資源保存技術の開発	R6～R9	家畜伝染病による殺処分から能力の高い種豚群を遺伝資源として効率的に保存・再構築するため、低品質卵子を活用した豚遺伝資源保存技術を開発する。	地域密着	岐阜大学
	【養豚】 抗病性指標の評価を活用した健全養豚実現体系の構築	R4～R8	養豚における健全な飼養管理体系を確立するため、抗病性育種（疾病抵抗性を指標とした家畜の遺伝的改良）やイムノバイオティクス（腸管などの粘膜免疫を介して宿主に有益な機能を発揮するプロバイオティクス）等の飼料添加物の活用により、豚が本来持つ自然免疫機能を底上げを図る。	地域密着	【外資】 イノベーション創出強化研究推進事業 開発研究ステージ（産学連携構築型）東北大学
	【養豚】 養豚業における抗菌薬の使用量を低減する新たな飼養管理技術の開発	R3～R8	肥育豚の離乳期以降の発育ステージにおいて抗菌薬の使用量を低減した新たな飼養管理技術を確立する。本研究により治療及び疾病予防を目的とした抗菌薬の使用量低減、薬剤耐性菌の発生抑制を図る。	地域密着	【一部外資】 日本中央競馬会畜産振興事業（R3-R5） 農研機構生物機能利用研究部門・動物衛生研究部門 東北大学
	【養鶏】 鶏舎における防疫向上に関する研究	R8～R12	鶏舎における防疫向上に必要な消毒方法や換気時にウィルスを鶏舎内に侵入させないための吸気口の防塵対策、さらには疾病にかかり難くするために高い抗体価を維持できるようなワクチンプログラム等に関して、より効果的な方法について検討する	地域密着	
	【養鶏】 新たな岐阜県産ブランドとなる種鶏の検討	R7～R11	地鶏として出荷可能な在来種由来血液率を保有しつつ、短期間飼育で肉用鶏（非地鶏）として出荷した場合にも歩留まりがよく、かつ維持に必要な系統が少ない新たな岐阜県産ブランド鶏の作出について取り組む	地域密着	
	【養鶏】 高・低病原性鳥インフルエンザ等の危機管理に対応する遺伝資源保護技術の確立 — 始原生殖細胞（PGCs）凍結保存技術等の活用—	R4～R8	鳥インフルエンザ等により貴重な遺伝資源が消失してしまうリスクを回避するための方法として①生体の分散飼育、②種卵の避難、③凍結精液保存および④PGCs凍結保存技術がある。現在は②と③により遺伝資源の保存を行っており、今後はPGCs凍結保存技術の習得、②～④の技術について長所・短所を検証しながら、これらの技術を活用した危機管理のための遺伝資源保存技術を確立する。	地域密着	

令和8年度 畜産研究所事業概要

担当研究部	事業名	事業期間	事業概要
飛驒牛研究部	飛驒牛改良事業	H18～	造成された優秀な種雄牛の凍結精液を製造・販売するとともに、有効利用のための技術支援を行う。また、安福系雌牛の系統繁殖を実施し、その中から高能力種雄牛や雌牛の生産を行うこと等により、「飛驒牛」ブランドの維持発展に資する。
	飛驒牛産肉能力検定事業	H24～	「飛驒牛」ブランドを支える高能力種雄牛を造成するため、種雄牛候補牛の産肉能力検定を行う。
	県優良種雄牛造成対策事業	R5～	種雄牛造成方針に沿った次世代種雄牛候補となるべき雄子牛の確保と、現場後代検定により種雄牛を選抜するための種雄牛候補牛の産子を確保する。
	飛驒牛戦略推進強化事業	R6～	全国和牛能力共進会北海道大会に向け、タンパク質を強化した子牛期育成飼料の有効性の検証と牛にとってストレスの少ない輸送ルート、給水・給餌方法の検討を行う。また、ゲノム育種価、エコー診断を活用し、出品牛の母牛の選定、出品候補牛の増産、出品牛の選抜を関係機関と協働で取り組む。
酪農研究部	家畜性判別胚供給事業	H20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所内の高能力乳用牛から採取し、雌雄判別した雌胚及び性選別された雌精液を利用して生産した体内胚・体外胚を譲渡する。（60胚/年） ・ 県内農家の乳用牛から採取された牛胚を性判別する。
	奨励品種指定試験 ～自給飼料生産・利用拡大推進事業～	H8	自給飼料の生産性向上を図るには、地域の自然条件や利用目的に適応した優良な品種を利用することが極めて重要である。岐阜県下において、普及を促進する必要があると認められる品種の適応性を調査し、県奨励品種選定の基礎資料とする。今年度はトウモロコシ7品種の比較試験を実施する。
養豚・養鶏研究部	ポーノブラウン改良推進事業	R7～	<p>豚肉の霜降り割合を高める遺伝的能力を持つ種豚「ポーノブラウン」の、生産性や抗病性能及び肉質改良を推進し、競争力ある種豚（精液）として販売供給を行う。</p> <p>また、豚熱のみならず、アフリカ豚熱、口蹄疫の国内侵入による家畜伝染病発生に備え、精液及び受精卵の凍結保存により、「ポーノブラウン」の遺伝資源保存に取り組む。</p>